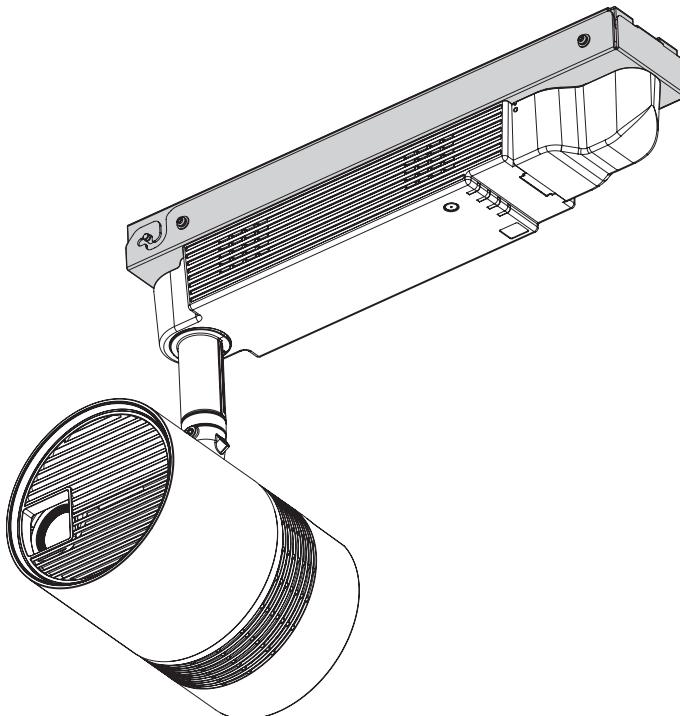


Panasonic®

施工説明書 天井直付けボックス

品番

NTN98000W
NTN98000B



※上記イラストは、本製品と別売品のプロジェクターを組み合わせた状態のものです。
※特に指定のない限り、本書内のイラストは NTN91000 を使用した場合のものです。

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■ お客様へ

この施工説明書は、工事業者様用です。設置工事は、必ず工事専門業者にご依頼ください。
また、工事完了後は、この施工説明書を工事業者様よりお受け取りのうえ、大切に保管してください。
移設、撤去の際には、工事専門業者にご依頼のうえ、この施工説明書をお渡しください。

■ 工事業者様へ

この「施工説明書」をよくお読みのうえ、正しく安全に工事を行ってください。
特に「安全上のご注意」(3~4ページ)は、施工前に必ずお読みください。
工事完了後は、この「施工説明書」をお客様にお渡しください。

■ もくじ

安全上のご注意	3
施工上のご注意	4
製品の構成	5
設置の前に	6
準備物	6
各部の主な名称	7
設置姿勢について	8
取り付け位置について	9
設置する	12
主な手順	12
電源ケースカバーの準備をする	12
天井取付金具を天井に取り付ける	12
電源用屋内配線を接続する	16
プロジェクターの本体部の向きを変更する	17
プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付ける	18
プロジェクターを天井取付金具に取り付ける	20
電源コードをプロジェクターに接続する	22
投写位置を調整する	24
仕様	26
外形寸法図	26
組立寸法図	27

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

	■ 設置工事は、工事専門業者または販売店に依頼する (工事の不備により、火災・感電・落下事故の原因になります。) ⇒本書の「設置する」に従って確実に施工してください。 ⇒電気配線などの施工には、電気工事士の資格が必要です。
	■ 設置工事の際は、必ず屋内配線の電源を切る (火災や感電の原因になります。)
	■ 配線用遮断装置（定格電流 10A 以下のブレーカー）を容易に手が届く位置に設置する (電源用屋内配線の容量不足や、設置に不備があった場合に、火災や感電の原因になります。) ⇒異常があったときは、すぐに配線用遮断装置で屋内配線の電源を切ってください。
	■ 取り付け場所の構造、材質に合った工事を行う (工法を誤ると、火災や感電、落下事故の原因になります。)
	■ 設置作業は足場の安全を確保して行う (倒れたり、落ちたりして、けがの原因となります。)
	■ 取り付けの際は、必ず付属の構成部品を使用する (強度不足や取り付けが不完全であると、落下によるけがや火災、感電の原因になります。)
	■ 電源コネクターは、プロジェクターの <AC IN> 端子に根元まで確実に差し込む (差し込みが不完全であると、感電や発熱による火災の原因になります。)
	■ 電源コードが破損するようなことはしない [傷つける、加工する、高温部や熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど] (傷んだまま使用すると、火災や感電、ショートの原因になります。)
	■ 荷重に耐えられない天井に設置しない (落下によるけがや火災、感電の原因になります。)
	■ プロジェクターの吸・排気をさまたげる場所に設置しない (プロジェクターの内部が高温になり、火災の原因となることがあります。)
	■ 湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に設置しない (火災や感電の原因になることがあります。また、油により樹脂が劣化し、プロジェクターが落下するおそれがあります。)
	■ 本製品を経由した電気配線は行わない (火災の原因になることがあります。)
	■ 指定のプロジェクター以外は取り付けない
	■ 指定の方法以外の設置は行わない (落下事故や火災、感電の原因になることがあります。)
	■ 付属のねじやストラップは、乳幼児の手の届くところに置かない (誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。) ⇒万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

安全上のご注意（つづき）



警告



- 本製品を分解したり、改造したりしない
(こわれたり、落下してけがをしたりする原因になります。)



注意



- 塩害が発生する所、腐食性ガスが発生する所に設置しない
(腐食による落下の原因になることがあります。)



- ライトコントロールなどの調光器との併用はしない
(火災の原因になることがあります。)

- プロジェクター本体にぶら下がったり、ものをぶら下げたりしない
(プロジェクターが落下してけがの原因となることがあります。)

- 水平な天井または45°までの傾斜天井に、指定の向きで取り付ける
(壁面や床面、大きく傾斜した天井などに取り付けたり、誤った向きに取り付けたりすると、落下事故の原因になります。)

- 天井取り付けのねじやボルトが、天井内部の金属部と接触しないように設置する
(天井内部の金属部と接触して、火災や感電の原因になることがあります。)

- 電源コードを取り外すときは、必ず電源コネクターを持って抜く
(コードを引っ張るとコードが破損し、感電、ショートによる火災の原因になることがあります。)

- 施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときは、当社では責任を負えません。
- ご使用を終了した製品は、工事専門業者にご依頼のうえ、速やかに撤去してください。

施工上のご注意

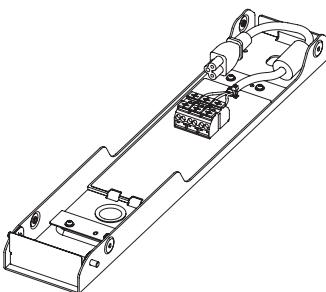
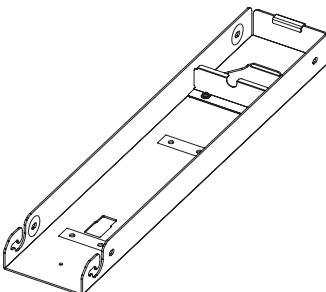
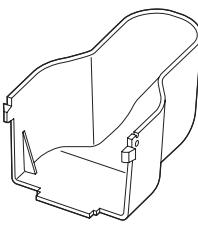
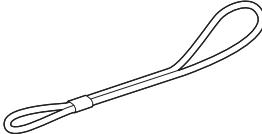
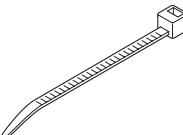
- プロジェクターと本製品の質量に十分耐えられる場所に設置してください。
- プロジェクターの吸気・排気を妨げないような場所に設置してください。
- 海の近くや腐食性ガスが発生する場所に設置しないでください。
- エアコンの吹き出し口や照明器具（スタジオ用ランプなど）の近くなど、温度変化が激しい場所に設置しないでください。
- 工事の際は、配線用遮断装置を切るなどして、必ず屋内配線の電源を切ってください。
- 電気工事は、電気設備の技術基準に従って施工してください。
- 天井取付金具の端子台へ取り付け可能な電源用屋内配線（適合する電線）は、直径1.6 mmまたは2.0 mmの銅単線（VVFケーブル 600 V）です。
- 天井の取り付け面がクロス貼りの場合、接着剤が十分に乾燥してから本製品を取り付けてください。
さびや塗装の変色などの原因になります。
- 本製品に対応するプロジェクターの突入電流は、70 A(電源電圧100 V時)～100 A(電源電圧242 V時)です。
配線用遮断装置をはじめ、スイッチなど接続する配線機器の仕様を考慮のうえ、配線してください。
- 木ねじを除くねじ類は、次の締めつけトルクで管理してください。

サイズ	締めつけトルク
M4	1.2 ± 0.3 N·m
M10	20 ± 1 N·m

- ねじ類の締めつけの際は、トルクドライバーやトルクレンチなどを使用し、電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。

製品の構成

以下の部品が入っていることを確認してください。<>は個数です。

天井取付金具 <1>		天井に取り付けて、製品全体を支える金具です。本金具には、電源用屋内配線を中継する端子台と、プロジェクターに接続して電源を供給するための電源コードが付いています。
プロジェクター取付金具 <1>		プロジェクターに取り付けたうえで、天井取付金具に組み付ける金具です。
電源ケースカバー <1>		プロジェクターの〈AC IN〉端子部分を覆い隠す化粧カバーです。
ストラップ <1>		電源ケースカバーの落下を防ぐためのものです。
結束バンド <1>		電源用屋内配線の天井取付金具への固定（張力止め）に使用します。
座金組み込みねじ <8> (M4 × 8)		金具の取り付けや組み付けに使用します。

お願い

- 包装材料は製品を取り出したあと、適切に処理してください。
- 部品を紛失してしまった場合、販売店にご相談ください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かない所に適切に保管してください。

お知らせ

- 本製品は全数組立検査を行っているため、天井取付金具とプロジェクター取付金具とを固定する部分周辺に、ねじの締めつけ跡が付いています。あらかじめご了承ください。
- 本製品の構成部品やプロジェクター、本製品とプロジェクターとの組み合わせ状態などのイラストは、実際とは異なることがあります。

設置の前に

準備物

本製品を天井に取り付けるにあたり、構成部品以外にあらかじめ準備が必要なものは次の通りです。

- 本製品は、プロジェクター(別売品)を天井に取り付けるための金具です。本製品に対応するプロジェクターに取り付けて使用します。

対応するプロジェクター : NTN91001W / NTN91001B / NTN91003W / NTN91003B

- 天井取付金具を天井に取り付ける際に、次の部品が必要になります。天井の構造や取付方法に応じて、市販品をお求めください。

<> は個数です。

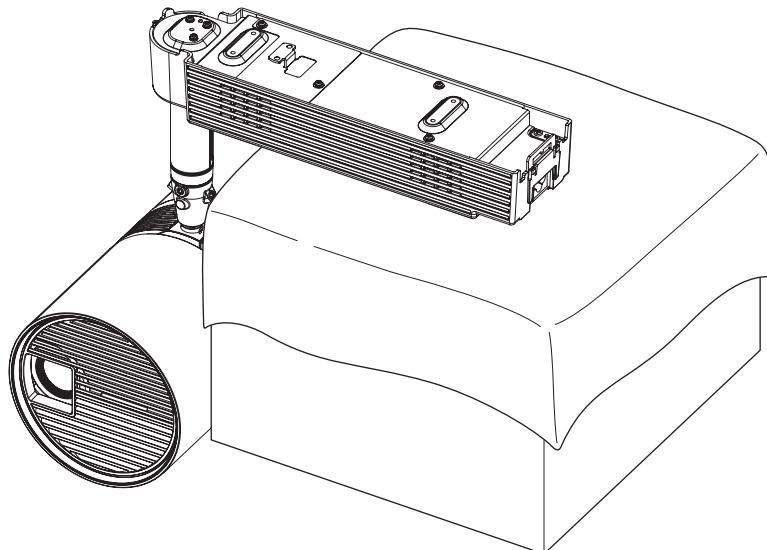
取り付け部の構造	市販品
コンクリート製の梁などの場合 (ボルト径 : M10)	つりボルト <2> 六角ナット <6> 平ワッシャー <6> スプリングワッシャー <4> アンカーナットまたはカールプラグ <2>
木製の梁などの場合 (ボルト径 : M10)	つりボルト <2> 六角ナット <8> 平ワッシャー <8> スプリングワッシャー <4>
木製補強材付きの天井面の場合	天井補強材へのねじの掛かり代を 16 mm 以上確保できる、 呼び径 3.1 mm の木ねじ <4>

お知らせ

- 本製品を他の場所へ移設する場合は、付属の結束バンド（全長 80 mm、UL 難燃グレード：UL94-V2）と同等のものが 1 本必要になります。

- プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付ける際に、作業用の台と、傷つき防止用の柔らかい布が必要になります。

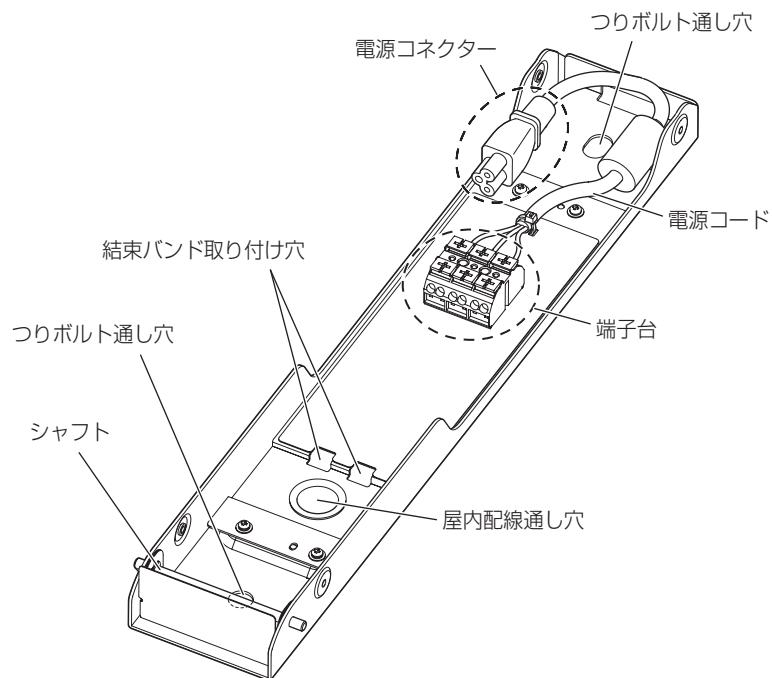
高さ : 280 mm 以上の取り付け作業用の台と、プロジェクターの下に敷く傷つき防止用の柔らかい布などをご用意ください。



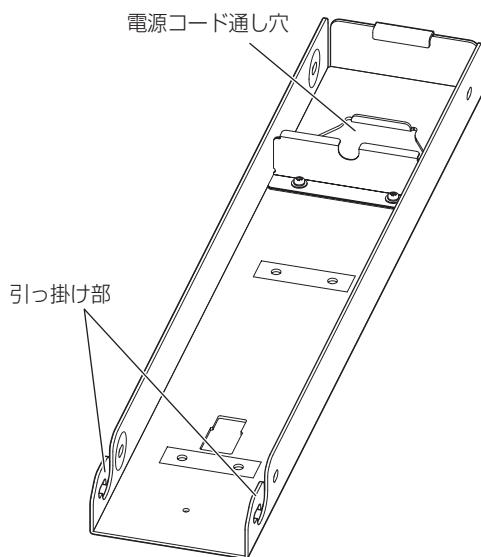
設置の前に（つづき）

各部の主な名称

■ 天井取付金具



■ プロジェクター取付金具

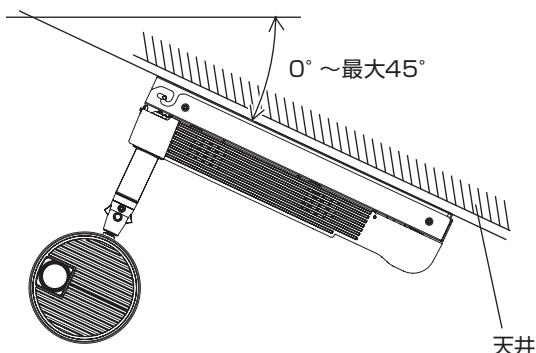


設置の前に（つづき）

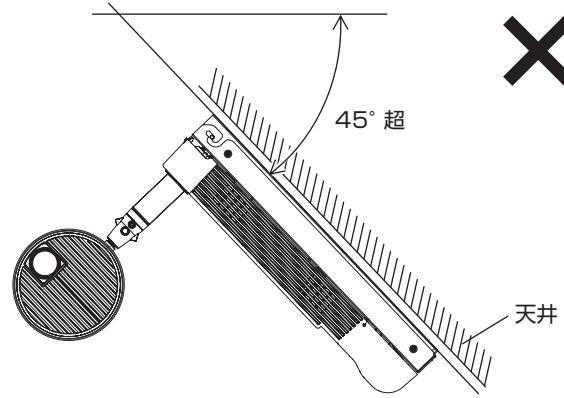
設置姿勢について

本製品は、水平な天井または45°までの傾斜天井に、指定の向きで取り付けてください。壁面や床面、大きく傾斜した天井などに取り付けたり、誤った向きに取り付けたりすると、落下事故の原因になります。

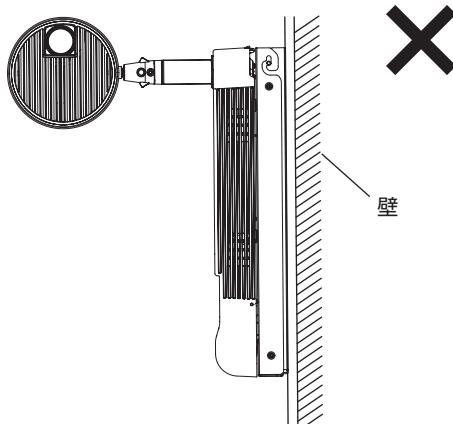
■45°を超える傾斜天井や、壁面、床面に取り付けないでください



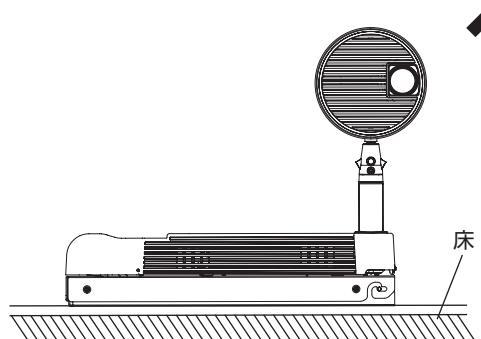
設置可能



設置不可

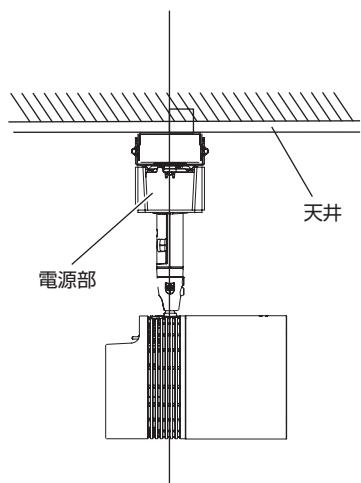


設置不可

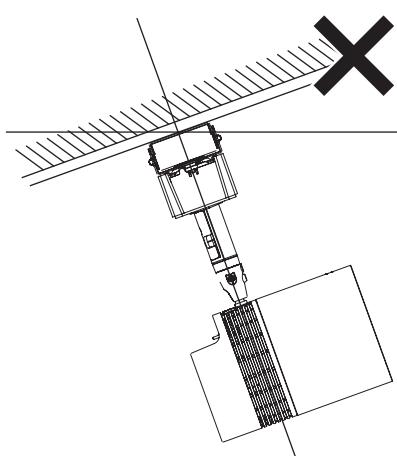


設置不可

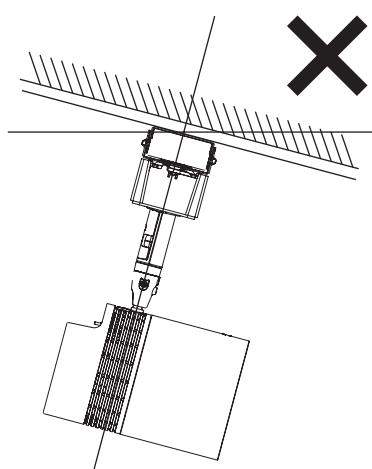
■左右に傾いた状態で、天井に取り付けないでください



設置可能



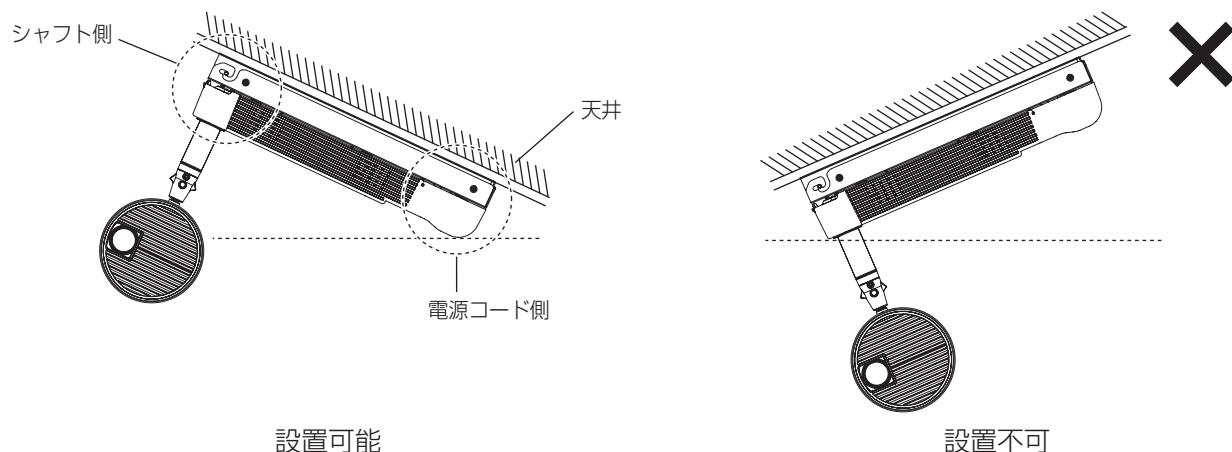
設置不可



設置不可

設置の前に（つづき）

■傾斜天井へ取り付ける場合は、天井取付金具のシャフト側が電源コード側よりも高くなる向きに取り付けてください



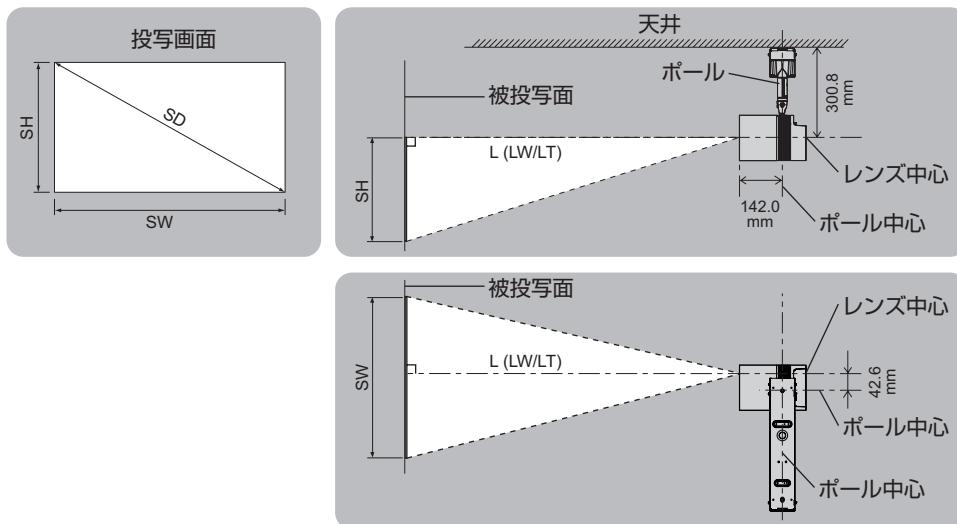
お知らせ

- 本書内の本製品やプロジェクター、本製品とプロジェクターとの組み合わせ状態などのイラストは、実際とは異なることがあります。

取り付け位置について

投写関係寸法図や投写距離、取り付け穴寸法を参考に、天井への取り付け位置を決めてください。
なお次のイラストは、プロジェクター本体部の投写レンズ面と被投写面が正対するように設置した場合の例です。
被投写面の位置や範囲に応じて、投写位置や投写画面サイズをプロジェクター側で調整できます。

■ 投写関係寸法図



L (LW/LT) *1	投写距離（投写レンズ面から被投写面までの距離）(m)
SH	画像高さ (m)
SW	画像幅 (m)
SD	画面対角サイズ (m)

*1 LW：最短投写距離
LT：最長投写距離

設置の前に（つづき）

■ 投写距離（画面アスペクト比 16:10 のとき）

プロジェクターと被投写面との関係寸法は次の通りです。

なお、表に記載の寸法には若干の誤差があります。また、プロジェクター側で台形補正を行った場合は、所定の画面サイズよりも小さくなる方向で補正されます。

(単位 : m)

投写画面サイズ			投写距離 (L)	
対角 (SD)	高さ (SH)	幅 (SW)	最短 (LW)	最長 (LT)
0.76 (30型)	0.404	0.646	0.95	2.10
1.02 (40型)	0.538	0.862	1.28	2.81
1.27 (50型)	0.673	1.077	1.61	3.52
1.52 (60型)	0.808	1.292	1.94	4.23
1.78 (70型)	0.942	1.508	2.27	4.94
2.03 (80型)	1.077	1.723	2.60	5.65
2.29 (90型)	1.212	1.939	2.93	6.36
2.54 (100型)	1.346	2.154	3.26	7.07
3.05 (120型)	1.615	2.585	3.92	8.50
3.81 (150型)	2.019	3.231	4.91	10.63
5.08 (200型)	2.692	4.308	6.55	14.19

■ 投写距離計算式（画面アスペクト比 16:10 のとき）

本書に記載のない画面サイズでご使用の場合は、投写画面サイズ SD (m) をご確認のうえ、それぞれの計算式で投写距離 (L) を求めてください。

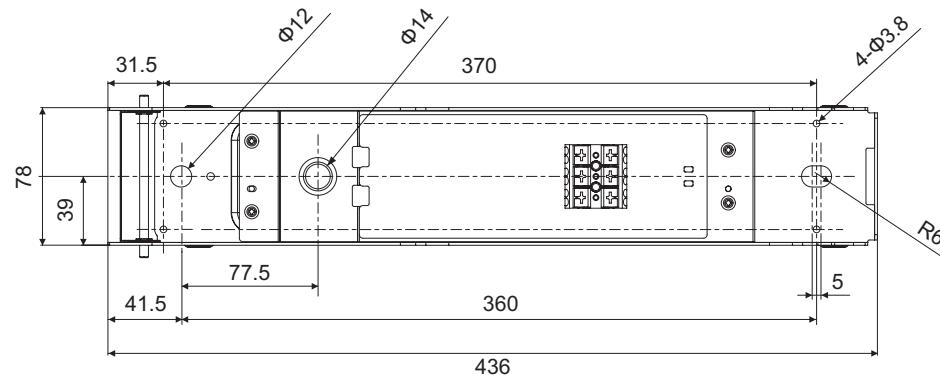
式の単位はすべて m です。（次の計算式で求められる値には、若干の誤差があります。）

投写距離を画面サイズ呼称（インチ数値）を用いて計算する場合は、インチ数値を 0.0254 倍したもの投写距離計算式の SD に代入してください。

最短投写距離 (LW)	$L = 1.2976 \times SD - 0.0385$
最長投写距離 (LT)	$L = 2.7999 \times SD - 0.0379$

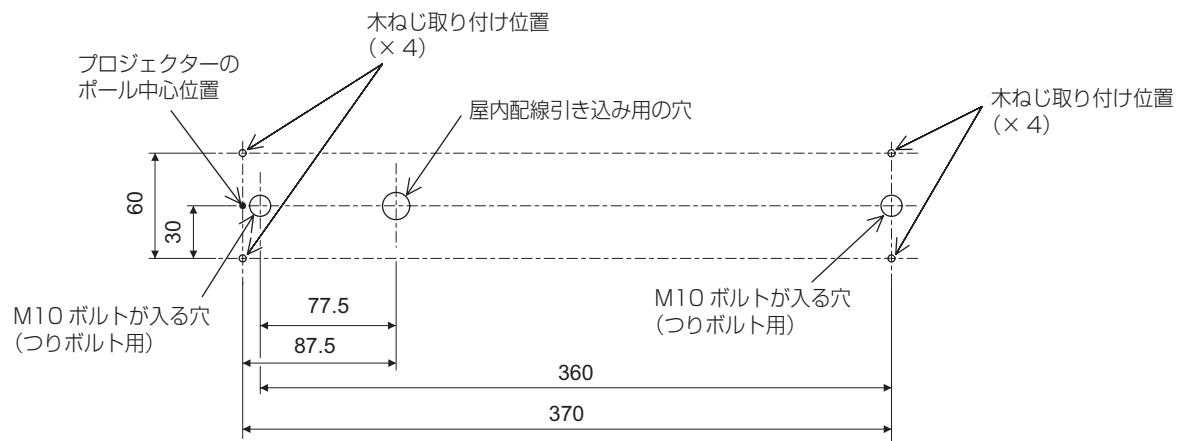
■ 取り付け穴寸法

〈天井取付金具図〉



設置の前に（つづき）

〈天井の穴位置寸法〉



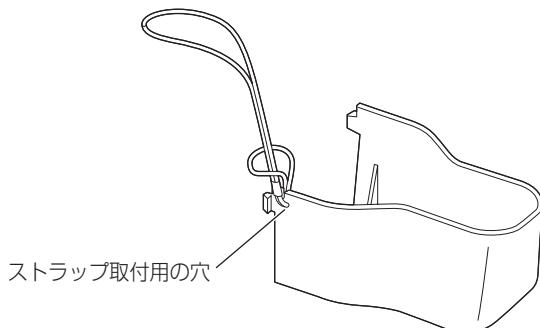
設置する

主な手順

本製品を使用してプロジェクター（別売品）を天井に設置する主な手順は次のとおりです。工事の際は、配線用遮断装置を切るなどして、必ず屋内配線の電源を切ってください。

- 1) 電源ケースカバーの準備をする（☞ 12 ページ）
- 2) 天井取付金具を天井に取り付ける（☞ 12 ページ）
- 3) 電源用屋内配線を接続する（☞ 15 ページ）
- 4) プロジェクターの本体部の向きを変更する（☞ 17 ページ）
- 5) プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付ける（☞ 18 ページ）
- 6) プロジェクターを天井取付金具に取り付ける（☞ 20 ページ）
- 7) 電源コードをプロジェクターに接続する（☞ 22 ページ）
- 8) 投写位置を調整する（☞ 24 ページ）

電源ケースカバーの準備をする



1) 電源ケースカバーにストラップを取り付ける

- ストラップの先端（輪の小さい方）を電源ケースカバーの穴に通したうえで、次図で示すようにして電源ケースカバーに取り付けてください。

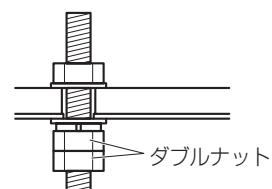
天井取付金具を天井に取り付ける

設置される場所の高さや広さ、建物構造をご確認のうえ、“取り付け位置について”（☞ 9 ページ）を参考にして、あらかじめ天井への取り付け位置を決めてください。プロジェクターのポール中心を位置決めの目安にしてください。

天井取付金具の取り付け方法は、天井の構造によって異なります。取り付ける天井に適した施工をしてください。つりボルトや天井直付けボックスの取り付け先が、プロジェクターと天井直付けボックスの質量に十分耐えられることを確認したうえで取り付けを行ってください。

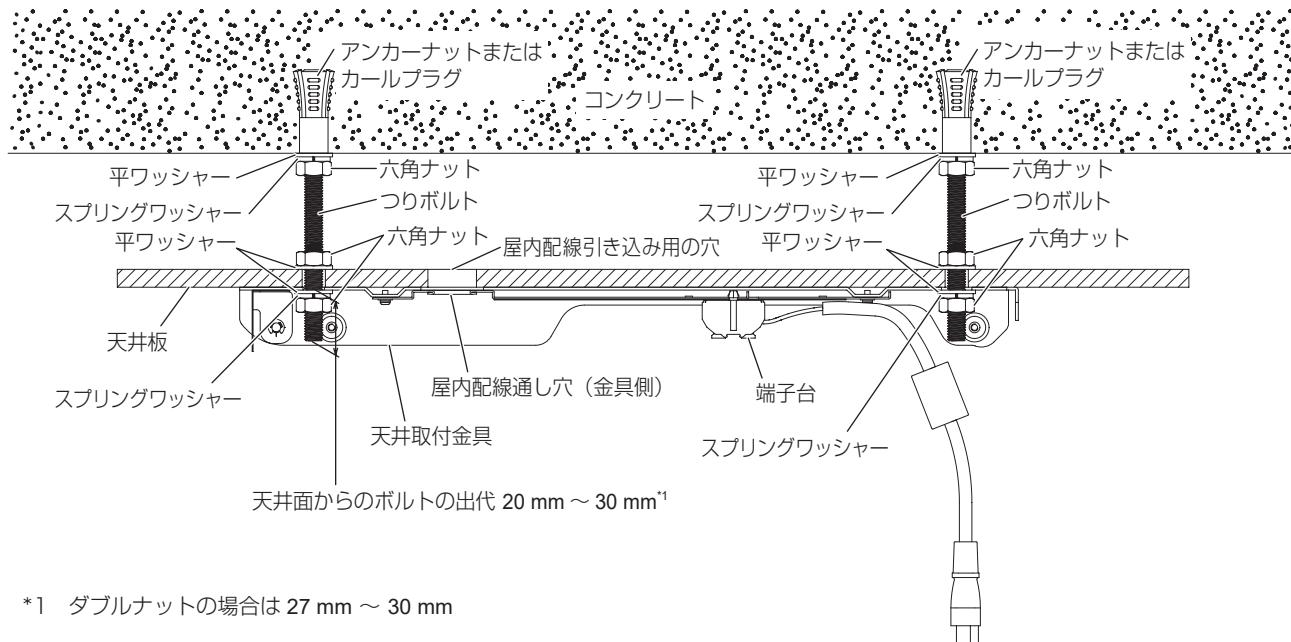
お願い

- つりボルトで天井に取り付ける場合、つりボルト、六角ナット、平ワッシャー、スプリングワッシャー、アンカーナットまたはカールプラグは、必ず M10 用の市販品をお求めください。
- つりボルトでコンクリート天井に取り付ける場合のアンカーナットまたはカールプラグ取り付け用の穴は、メーカーが指定するサイズに合わせて開けてください。
- 各ナットは確実に締めつけ、緩みが発生しないよう必要に応じてダブルナット、ねじロックの処置を行ってください。
- 木ねじで天井に取り付ける場合、天井補強材へのねじの掛かり代を 16 mm 以上確保できる呼び径 3.1 mm の市販品の木ねじをお求めください。



設置する（つづき）

■ つりボルトの取り付け先がコンクリートの場合



*1 ダブルナットの場合は 27 mm ~ 30 mm

1) “取り付け穴寸法”（☞ 10 ページ）を参考にして、取り付け用の穴を加工する

- アンカーナットまたはカールプラグ取り付け用の穴は、メーカーが指定するサイズに合わせて開けてください。
- 天井板には、つりボルト（M10）が通る穴（×2）と屋内配線引き込み用の穴（×1）を開けてください。

2) コンクリート天井につりボルト2本を取り付ける

- コンクリート天井にアンカーナットまたはカールプラグを取り付け、つりボルト2本をしっかりと固定してください。
- アンカーナットまたはカールプラグの取り付けは、メーカーが指定する作業基準に従い、抜けや緩みのないよう、また位置ずれが発生しないよう、十分に注意してください。
- 天井のコンクリートが弱くてもろい場合や長年の使用で劣化が考えられる場合は、鉄骨や木材で補強を行ってください。

3) 天井から、電源用屋内配線を引き出す

- 天井板に開けた屋内配線引き込み用の穴から、電源用屋内配線を引き出してください。

4) 天井取付金具をつりボルトに取り付ける

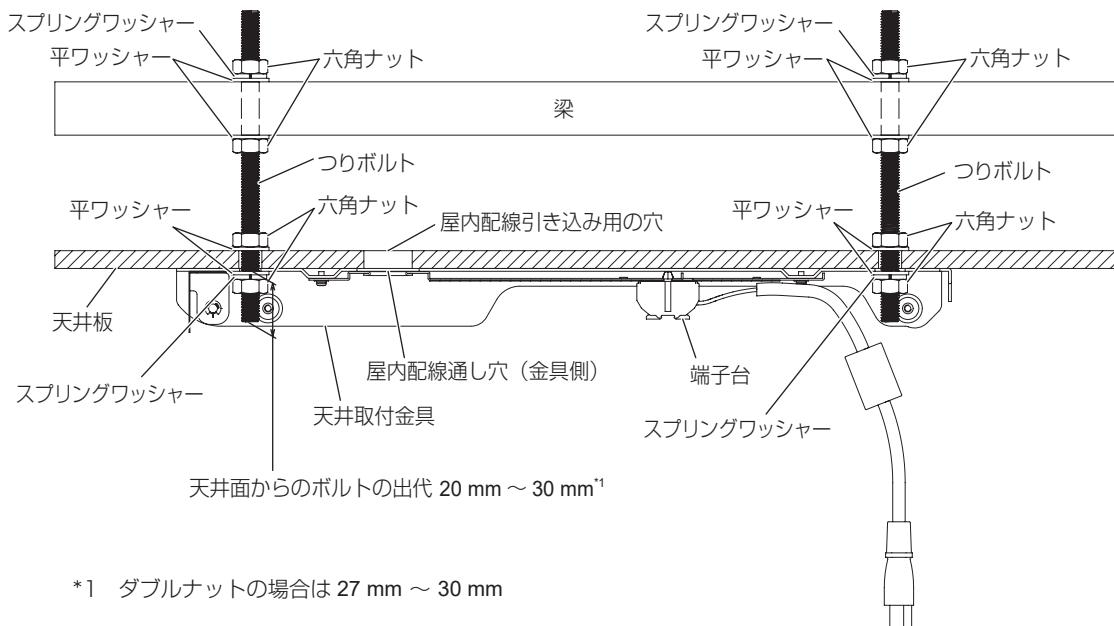
- 電源用屋内配線を天井取付金具の屋内配線通し穴に通したうえで、天井取付金具をつりボルトにしっかりと固定してください。
- 天井取付金具側のつりボルトの先端は、六角ナットから約5mm飛び出すようにしてください。
- 天井取付金具の表面からつりボルトの先端までの長さは、30mm以内にしてください。長すぎると、プロジェクターアームが取り付けられなくなります。
- 天井取付金具の取り付けには、必ず市販の平ワッシャーとスプリングワッシャーを使用してください。

お願い

- 天井板と天井取付金具とを固定する六角ナットは、天井板の材料強度を考慮して締めつけを行ってください。天井板の材料強度が低い場合、指定のトルクで締めつけると、天井板が破損するおそれがあります。またこの場合、六角ナットの緩みが発生しないよう、ダブルナットやねじロックの処置を行ってください。

設置する（つづき）

■ つりボルトの取り付け先が木製の梁の場合



*1 ダブルナットの場合は 27 mm ~ 30 mm

1) “取り付け穴寸法”（☞ 10 ページ）を参考にして、取り付け用の穴を加工する

- 天井の梁部に、つりボルトの貫通穴を 2 か所開けてください。
- 天井板には、つりボルト (M10) が通る穴 (× 2) と屋内配線引き込み用の穴 (× 1) を開けてください。

2) つりボルト 2 本を取り付ける

- 天井の梁部に、つりボルト 2 本をしっかりと固定してください。
- つりボルトを固定する場所の強度が不足している場合は、安全係数に留意して十分な補強を行ってください。

3) 天井から、電源用屋内配線を引き出す

- 天井板に開けた屋内配線引き込み用の穴から、電源用屋内配線を引き出してください。

4) 天井取付金具をつりボルトに取り付ける

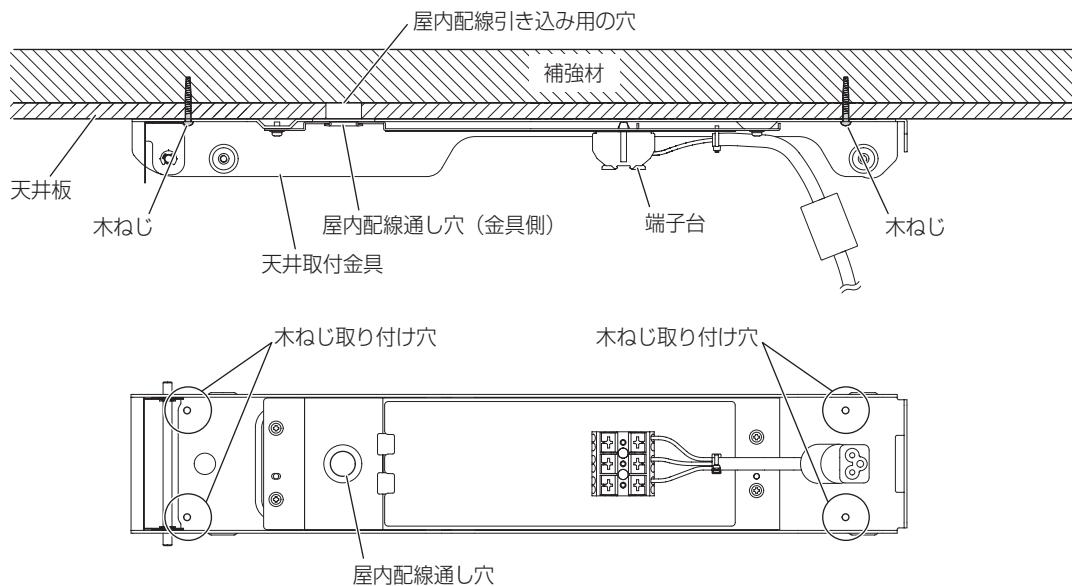
- 電源用屋内配線を天井取付金具の屋内配線通し穴に通したうえで、天井取付金具をつりボルトにしっかりと固定してください。
- 天井取付金具側のつりボルトの先端は、六角ナットから約 5 mm 飛び出すようにしてください。
- 天井取付金具の表面からつりボルトの先端までの長さは、30 mm 以内にしてください。長すぎると、プロジェクター取付金具が取り付けられなくなります。
- 天井取付金具の取り付けには、必ず市販の平ワッシャーとスプリングワッシャーを使用してください。

お願い

- 天井板と天井取付金具とを固定する六角ナットは、天井板の材料強度を考慮して締めつけを行ってください。天井板の材料強度が低い場合、指定のトルクで締めつけると、天井板が破損するおそれがあります。またこの場合、六角ナットの緩みが発生しないよう、ダブルナットやねじロックの処置を行ってください。

設置する（つづき）

■ 補強された天井板に木ねじで取り付ける場合



1) “取り付け穴寸法”（☞ 10 ページ）を参考にして、取り付け用の穴を加工する

- 天井板に屋内配線引き込み用の穴（× 1）を開け、木ねじで固定する位置（4か所）に印を付けてください。

2) 天井から、電源用屋内配線を引き出す

- 天井板に開けた屋内配線引き込み用の穴から、電源用屋内配線を引き出してください。

3) 天井取付金具を天井に取り付ける

- 電源用屋内配線を天井取付金具の屋内配線通し穴に通したうえで、あらかじめ決めた位置に天井取付金具を合わせ、天井板にしっかりと固定してください。
- 天井取付金具の固定には、呼び径 3.1 mm の市販品の木ねじを使用してください。
- 取り付け先の天井板の強度が不足している場合、製品の落下や、天井板の湾曲、破損などが発生するおそれがあります。安全係数に留意して十分な補強を行ってください。
- 天井を補強する場合は、補強材へのねじの掛かり代を 16 mm 以上確保してください。

[参考]

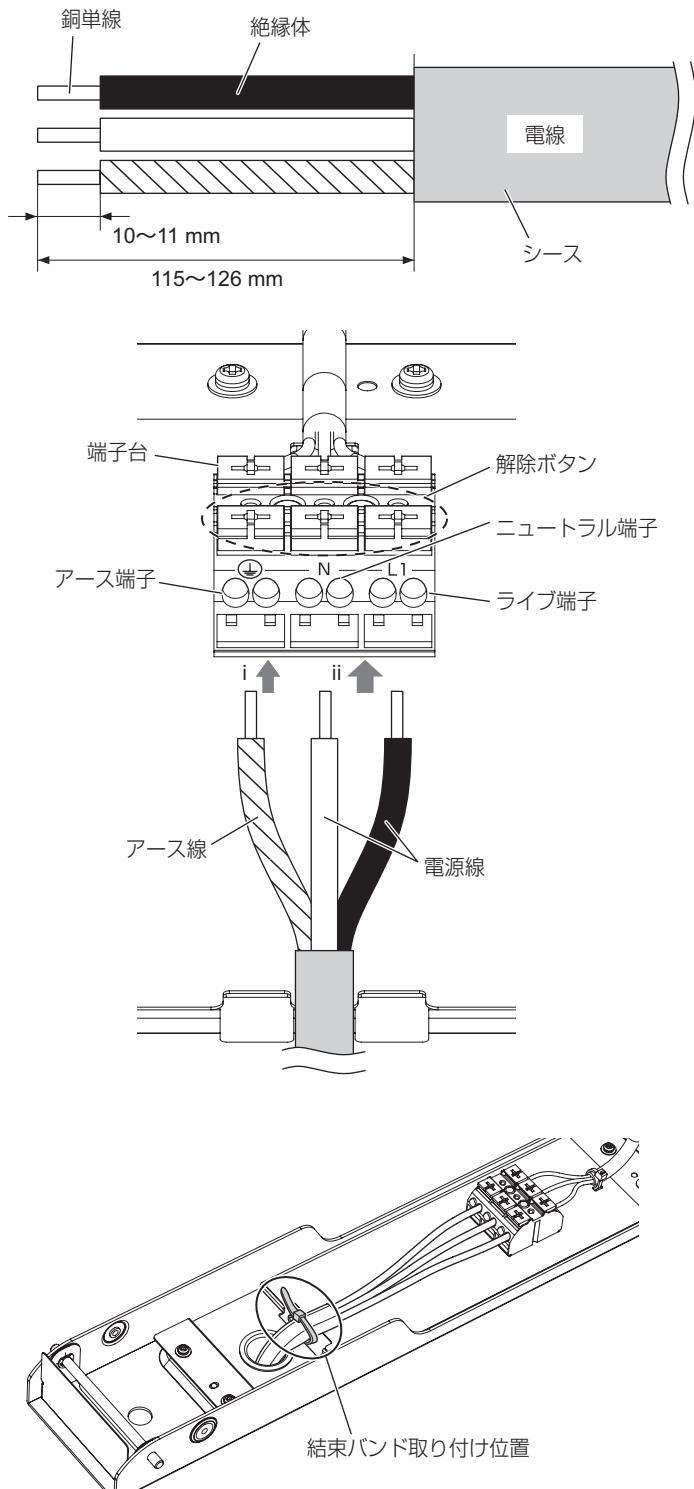
樹種 (厚み 20 mm 以上)	木ねじ（呼び径 3.1 mm × 掛かり代 16 mm）			単位 (N)
	板目	柾目	小口	
松	637	539	441	
杉	490	490	343	
檜	784	1029	441	
ラワン		441	—	
クロス合板		539	392	
平行合板		392	193	

設置する（つづき）

電源用屋内配線を接続する

天井取付金具の端子台に電源用屋内配線を接続します。

適合する電線は、直径 1.6 mm または 2.0 mm の銅単線（600 V 対応の VVF ケーブル）です。



1) 電線の被覆を剥く

- 電源用屋内配線（電線）を天井から引き出し、電線のシースを 115 mm ~ 126 mm 剥ぎ取ったうえで、電源線（2 本）とアース線の絶縁体を 10 mm ~ 11 mm 剥がしてください。
- 指定の寸法を超えた場合、感電の原因になります。

2) 天井取付金具の端子台に電線を接続する

- まず最初に端子台のアース端子を使用して、D 種（第3種）接地工事を行います。アース線をアース端子（）の奥まで確実に差し込んでください（i）。接続が不完全な場合、火災の原因になります。
- 次に電源線（2 本）を、端子台のライブ端子（L1）とニュートラル端子（N）の奥まで確実に差し込んでください（ii）。接続が不完全な場合、火災の原因になります。

お願い

- 本製品の端子台を経由して、他のプロジェクター や照明器具の電気配線は行わないでください。火災の原因になることがあります。

お知らせ

- 端子台に接続した電線を取り外す場合は、端子台の解除ボタンをドライバー（刃先幅 6 mm 以下・先端厚 0.8 mm 以下のマイナスドライバーまたは No.1 又は No.2 のプラスドライバー）で押し込みながら 1 本ずつ引き抜いてください。電源線を先に取り外し、最後にアース線を取り外してください。

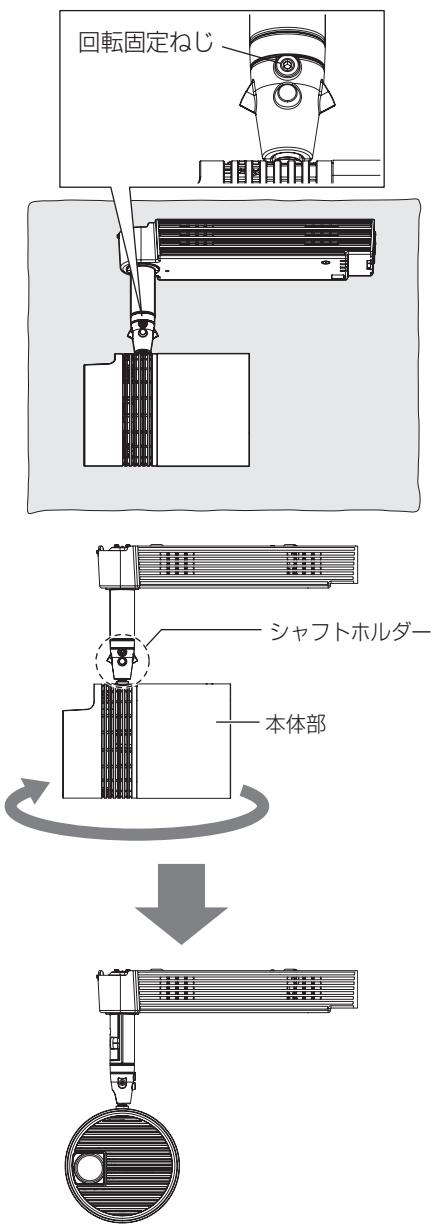
3) 電線を天井取付金具に固定する

- 端子台に接続した電線がたるまないよう天井内に押し戻したうえで、結束バンド取り付け穴に付属の結束バンドを通し、電線を天井取付金具に締めつけて固定してください。
- 天井取付金具にプロジェクター取付金具を組み付けた際に内部に納まるよう、結束バンドの余分な部分をカットしてください。

設置する（つづき）

プロジェクターの本体部の向きを変更する

プロジェクター取付金具の取り付け作業を行いややすくするため、プロジェクターの本体部の向き変更します。



1) プロジェクターを、平らな面に敷いた柔らかい布などの上に置く

2) 固定ねじを緩める

- プロジェクターの回転固定ねじを、プロジェクターに付属の六角レンチ（対辺サイズ3.0 mm）で緩めてください。

3) 本体部の向きを変更する

- 回転固定ねじを緩めるとシャフトホルダーが回転できるようになるので、本体部の向きを変更してください。

4) 固定ねじを締めつける

- 取り付け作業中に本体部が動かないよう、回転固定ねじをプロジェクターに付属の六角レンチ（対辺サイズ3.0 mm）でしっかりと締めつけてください。

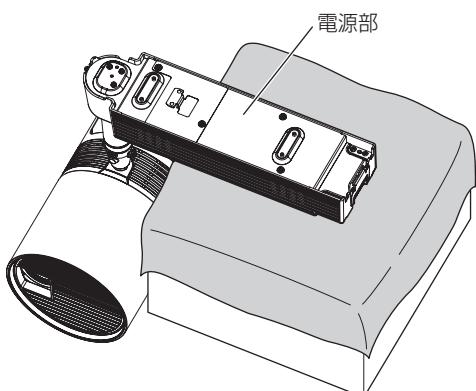
お知らせ

- 回転固定ねじは、六角穴付き止めねじ（M6）です。緩め過ぎるとプロジェクターから外れますのでご注意ください。

設置する（つづき）

プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付ける

プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付けます。

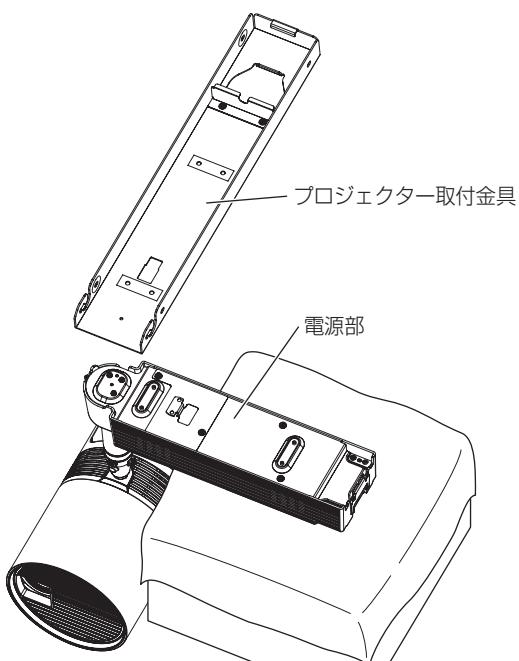


1) プロジェクターを作業用の台に置く

- プロジェクターの電源部を、柔らかい布などを敷いた作業用の台の上に置いてください。

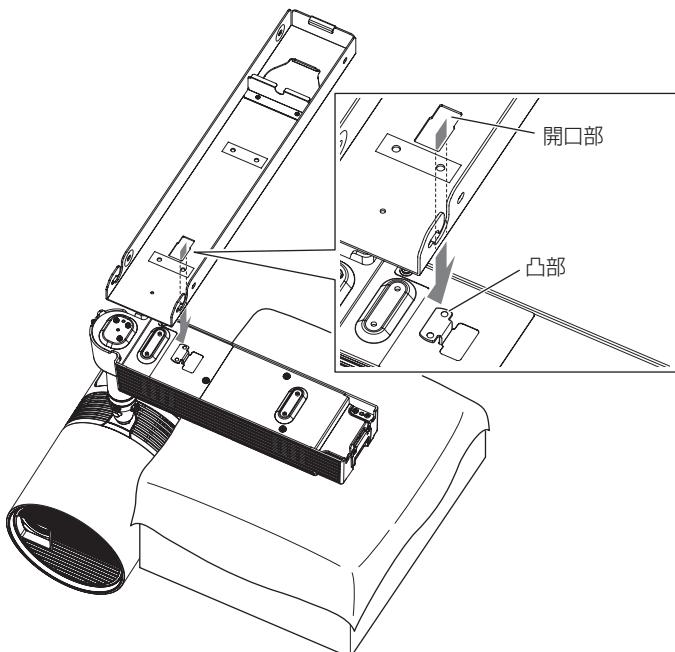
お願い

- プロジェクターが不安定な状態になりますので、プロジェクター取付金具の取り付け作業は2人以上で行ってください。



2) プロジェクター取付金具の向きを合わせる

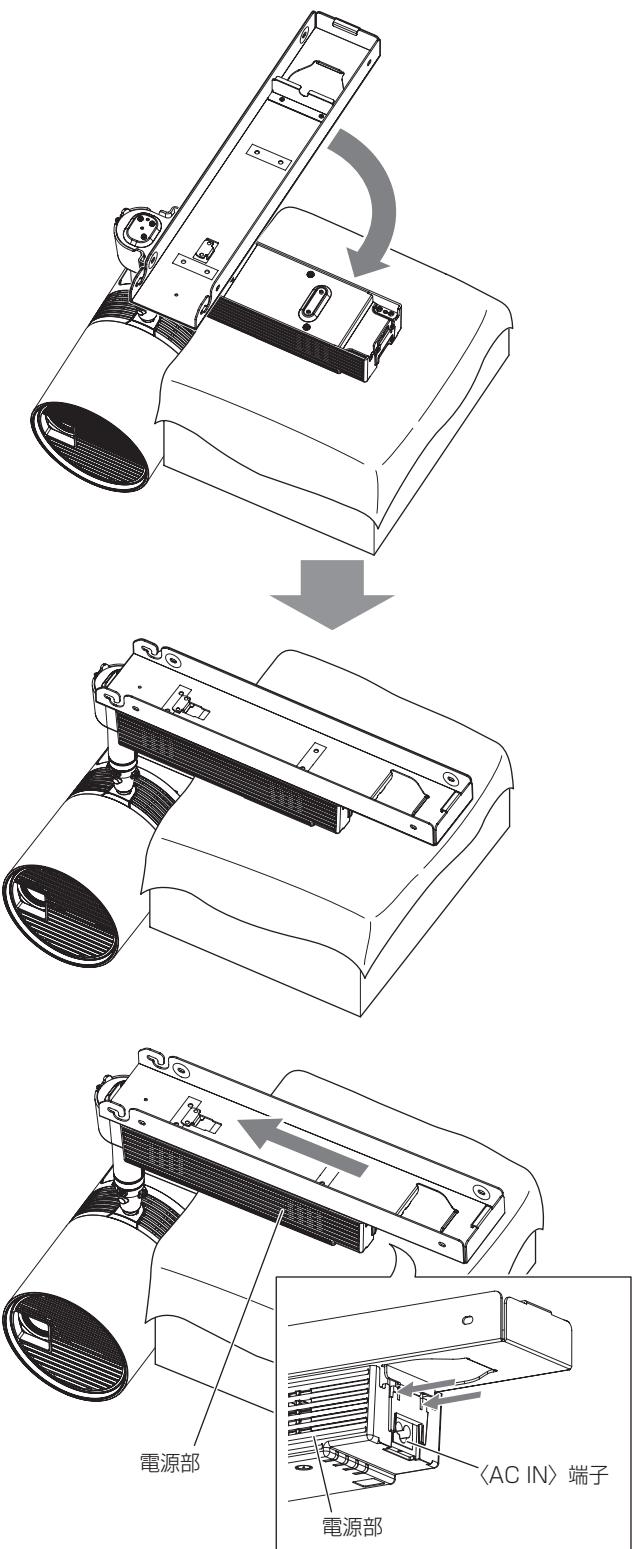
- プロジェクター取付金具を、プロジェクターの電源部に対して 90° の向きにしてください。



3) プロジェクター取付金具をプロジェクターに取り付ける

- プロジェクター取付金具の開口部をプロジェクターの凸部の位置に合わせて取り付けてください。

設置する（つづき）



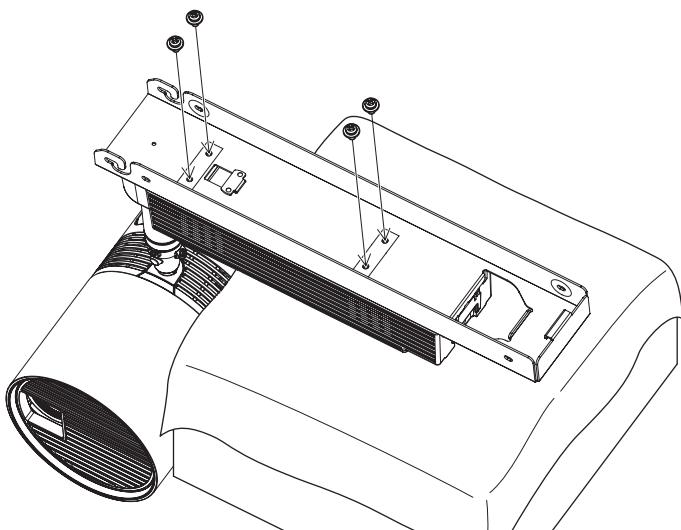
4) プロジェクター取付金具を回転させる

- プロジェクター取付金具を回転させ、プロジェクターの電源部の向きと合わせてください。

5) プロジェクター取付金具をスライドさせる

- プロジェクター取付金具をスライドさせ、プロジェクターの電源部の〈AC IN〉端子側にはめ込んでください。

設置する（つづき）

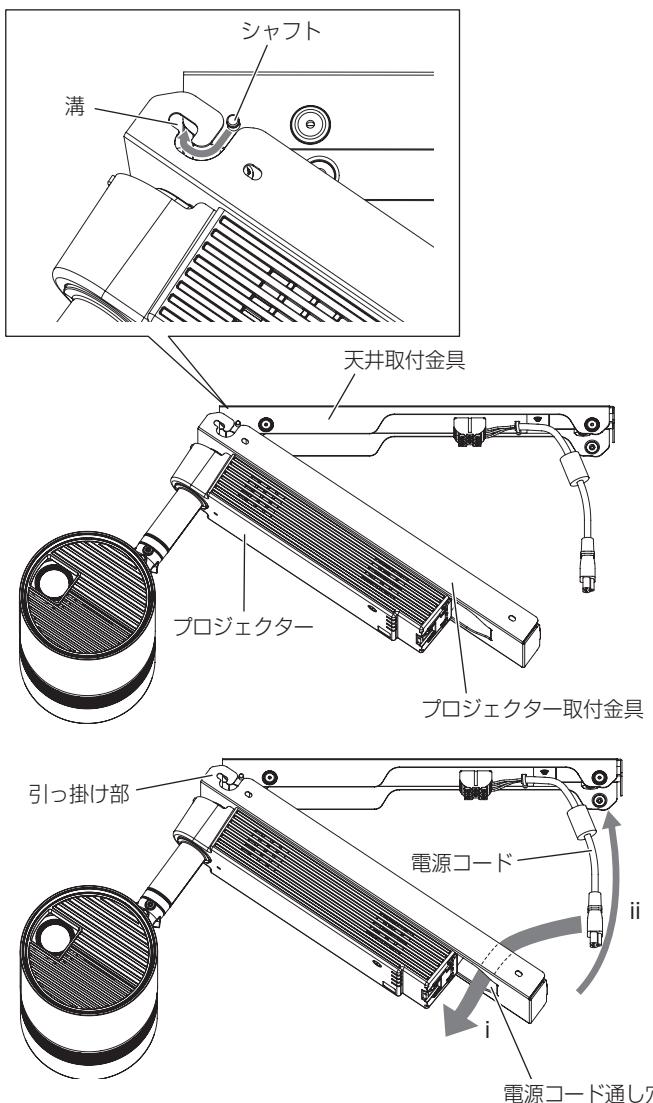


6) 座金組み込みねじでプロジェクター取付金具を固定する

- 付属の座金組み込みねじ（M4 × 8）4本で、プロジェクター取付金具をしっかりと固定してください。

プロジェクターを天井取付金具に取り付ける

プロジェクター取付金具を取り付けたプロジェクターを、天井に取り付けた天井取付金具に組み付けます。



1) 天井取付金具のシャフトに、プロジェクター取付金具の引っ掛け部をはめ込む

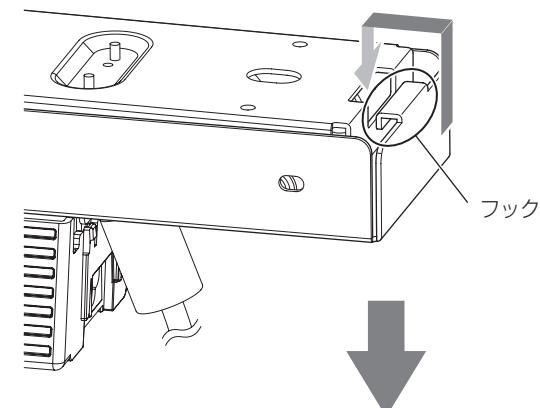
お願い

- 天井取付金具のシャフトがプロジェクター取付金具の引っ掛け部にはまり込むまでは、手を離さないでください。

2) プロジェクター取付金具を持ち上げる

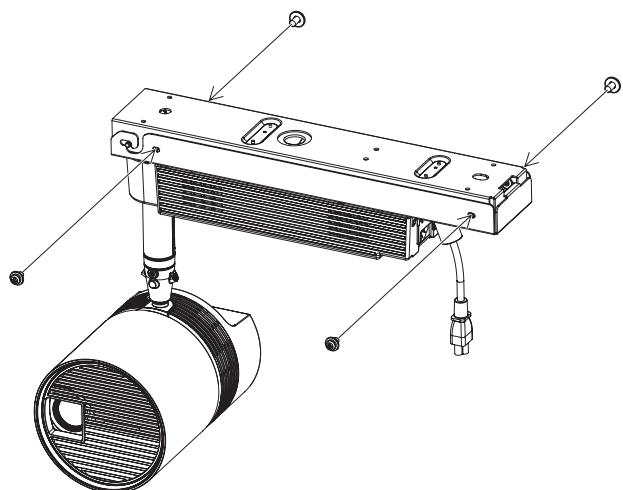
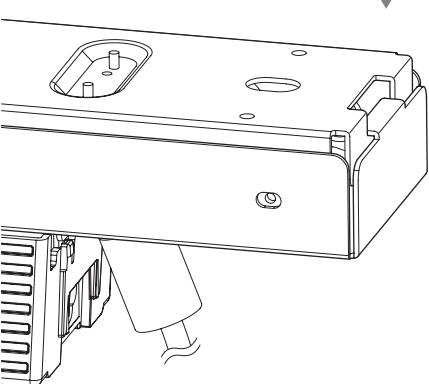
- 電源コードをプロジェクター取付金具の電源コード通し穴に通しながら（i）、引っ掛け部を支点にしてプロジェクター取付金具を持ち上げてください（ii）。

設置する（つづき）



3) プロジェクター取付金具を天井取付金具に組み付ける

- プロジェクター取付金具を持ち上げながらスライドさせて、プロジェクター取付金具のフックを天井取付金具に引っ掛けてください。



4) 座金組み込みねじでプロジェクター取付金具を天井取付金具に固定する

- 付属の座金組み込みねじ（M4 × 8）4 本で、プロジェクター取付金具をしっかりと固定してください。

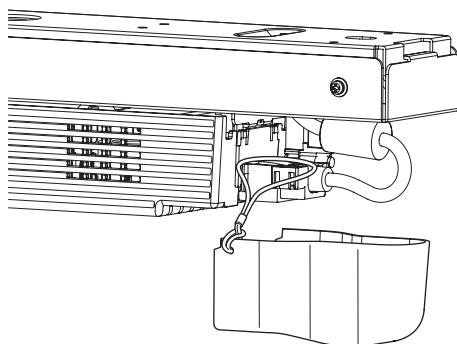
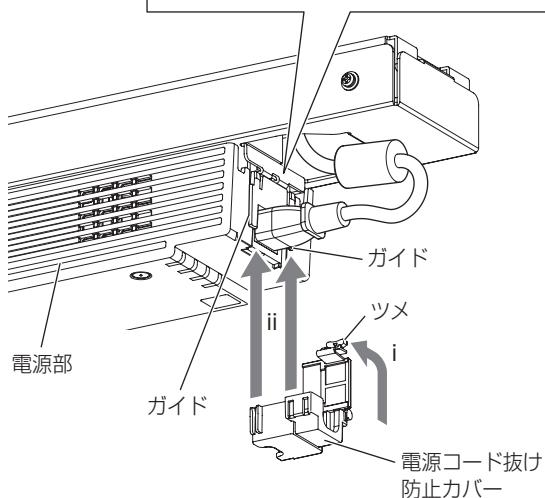
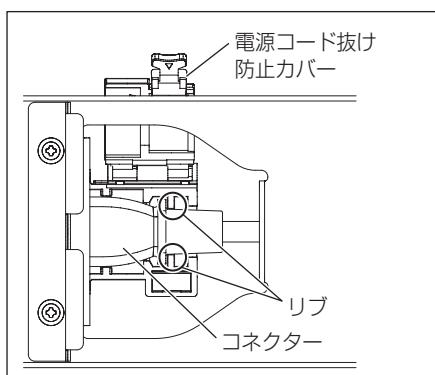
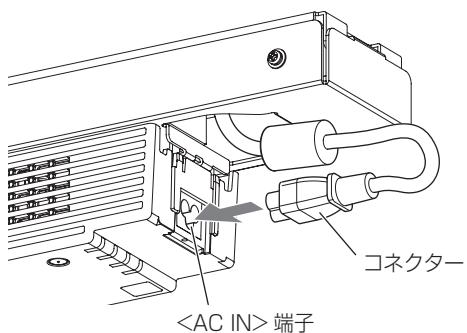
設置する（つづき）

電源コードをプロジェクターに接続する

天井取付金具に取り付けられている電源コードをプロジェクターに接続します。

電源コードの抜けを防止するため、プロジェクターの〈AC IN〉端子に根元まで確実に差し込んで固定してください。

電源コードの詳しい取り扱いについては“安全上のご注意”（☞ 3 ページ）をご覧ください。



- 1) プロジェクターの〈AC IN〉端子と電源コードのコネクターの形状を確認し、向きを合わせてしっかりと奥まで差し込む

2) 電源コード抜け防止カバーを取り付ける

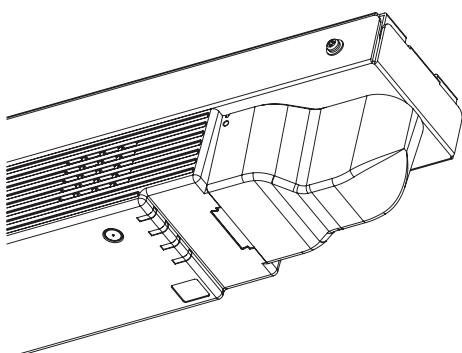
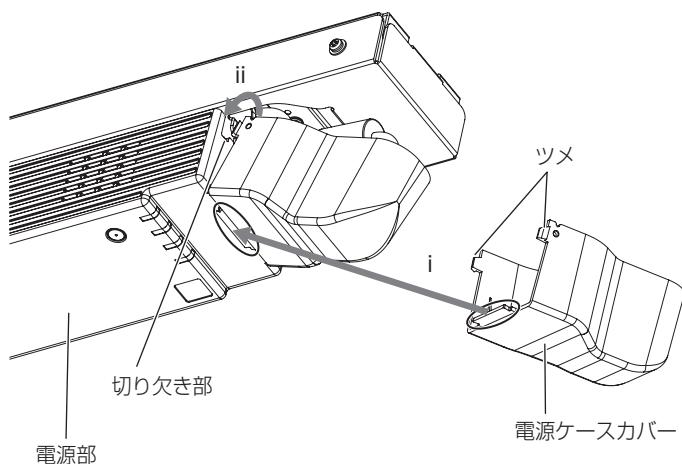
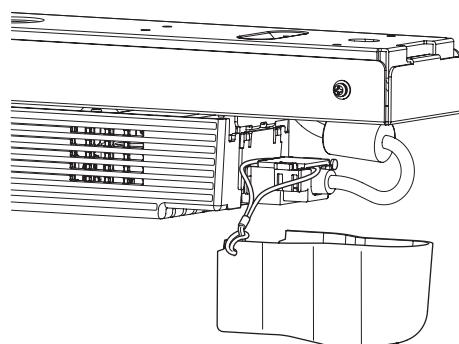
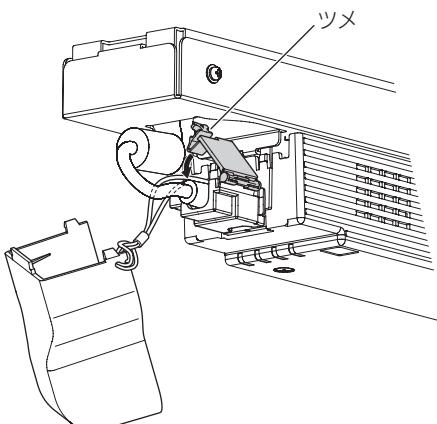
- 電源コード抜け防止カバーのツメ部分を左下図のように持ち上げながら（i）、電源部の〈AC IN〉端子の両側のガイドに沿って、プロジェクターに付属の電源コード抜け防止カバーを取り付けてください（ii）。

このとき電源コードのコネクターが、電源コード抜け防止カバーのリブよりも内側（電源部側）に納まっていることを確認してください。

3) 電源ケースカバーのストラップを電源コード抜け防止カバーに掛ける

- あらかじめ付属の電源ケースカバーに取り付けておいたストラップを、左図のように電源コード抜け防止カバーに掛けます。

設置する（つづき）



電源ケースカバー取付完了後のイメージ

4) 電源コード抜け防止カバーを閉じる

- ストラップを掛けた状態で、電源コード抜け防止カバーのツメがカチッと音がするまで押し込みます。
このときストラップをツメで挟み込まないようにしてください。
- ストラップは、電源ケースカバーが外れ落ちることを防止するためのものです。必ず電源コード抜け防止カバーに引掛けた状態でご使用ください。

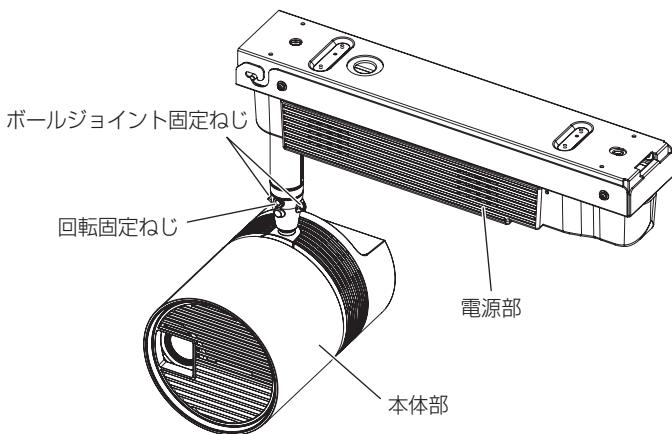
5) 電源ケースカバーを取り付ける

- 電源ケースカバーアー下側中央の凸部を電源部の凹部に合わせながら（i）、電源ケースカバー上側左右のツメを電源部の切り欠き部にカチッと音がするまで押し込んでください（ii）。
このとき、電源ケースカバーでストラップを挟み込まないようにしてください。

設置する（つづき）

投写位置を調整する

プロジェクターの本体部の向きを調整して投写位置を定めます。

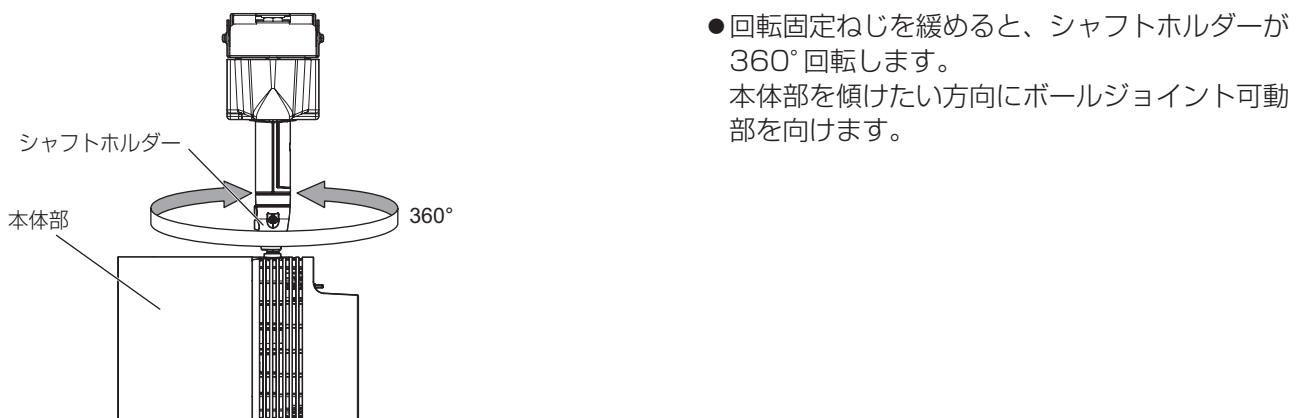
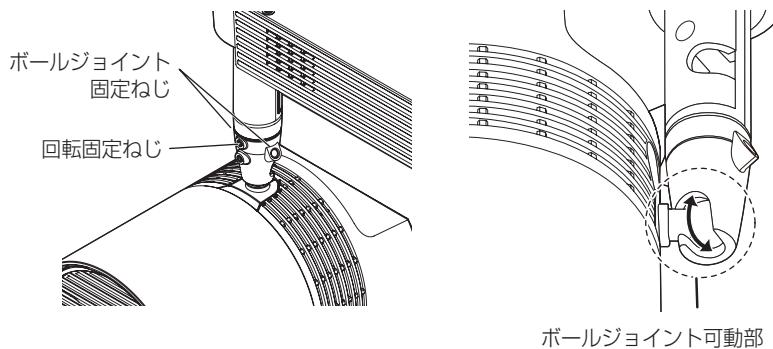


1) プロジェクターの固定ねじを緩める

- プロジェクターの回転固定ねじとボールジョイント固定ねじ（2か所）を、プロジェクターに付属の六角レンチ（対辺サイズ3.0 mm）で緩めてください。

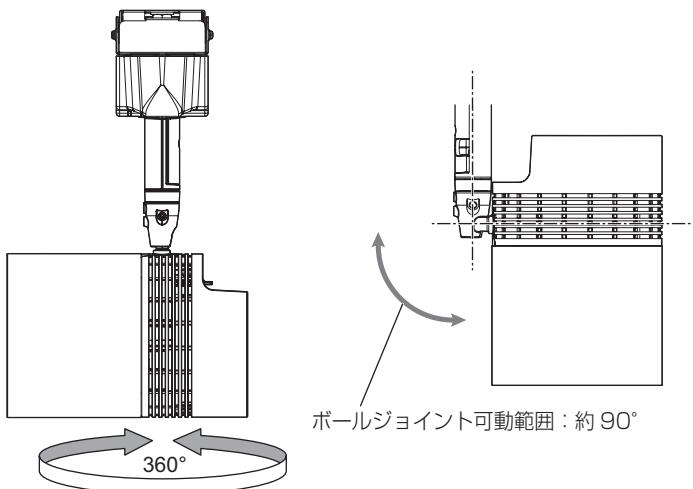
2) 本体部の向きを調整する

- ボールジョイント可動部を、本体部を傾けたい方向に合わせたうえで、本体部の向きを調整してください。



- 回転固定ねじを緩めると、シャフトホルダーが360°回転します。
本体部を傾けたい方向にボールジョイント可動部を向けてください。

設置する（つづき）



- ボールジョイント固定ねじ（2か所）を緩めるとボールジョイントが自由になります。本体部を360°回転させることや、ボールジョイント可動部で本体部を90°傾けることができます。

3) 固定ねじを締めつける

- 本体部を支えながら、回転固定ねじとボールジョイント固定ねじ（2か所）を、プロジェクターに付属の六角レンチ（対辺サイズ3.0 mm）でしっかりと締めつけてください。

お願い

- プロジェクターの本体部と電源部はケーブルなどで接続されています。本体部を必要以上に回転させたり傾けたりしないでください。

お願い

- 回転固定ねじとボールジョイント固定ねじは、六角穴付き止めねじ（M6）です。緩め過ぎるとプロジェクターから外れますのでご注意ください。
- 概略調整後、プロジェクターの取扱説明書をご参照のうえ、実際に投写しながら投写位置やフォーカス、投写画面サイズを調整してください。また必要に応じて、台形ひずみを補正してください。

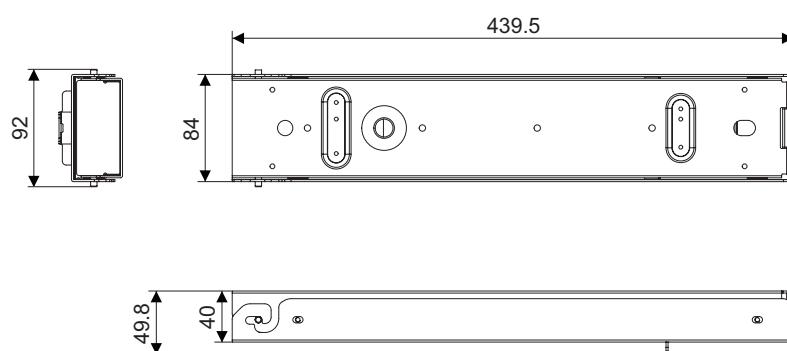
仕様

外形寸法 ¹⁾	横幅：84 mm 高さ：40 mm 奥行：439.5 mm
質量	1.7 kg
外装色	NTN98000W：白 (NTN91001W / NTN91003Wとの組み合わせ用) NTN98000B：黒 (NTN91001B / NTN91003Bとの組み合わせ用)

*1：本製品単独で組み立てた状態で、突起部および電源コード、電源ケースカバーを除いた寸法です。

外形寸法図

天井取付金具とプロジェクター取付金具を組み合わせた状態の寸法です。

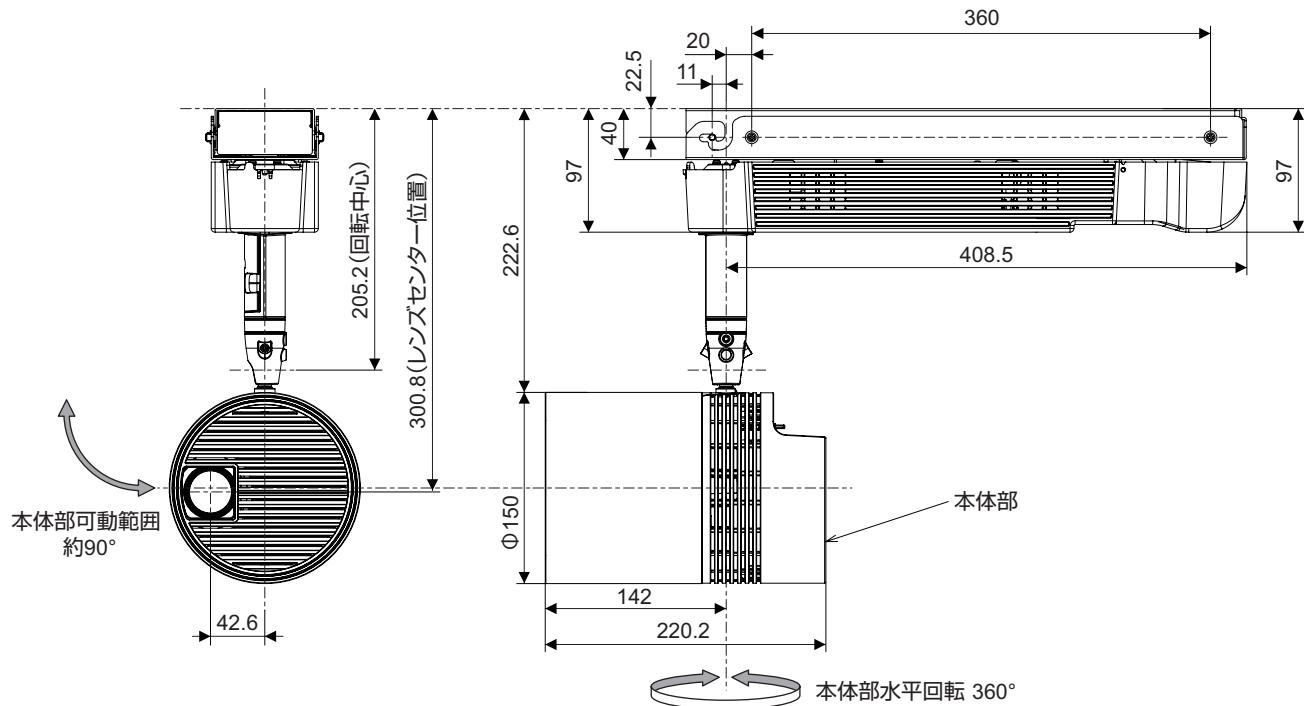


仕様（つづき）

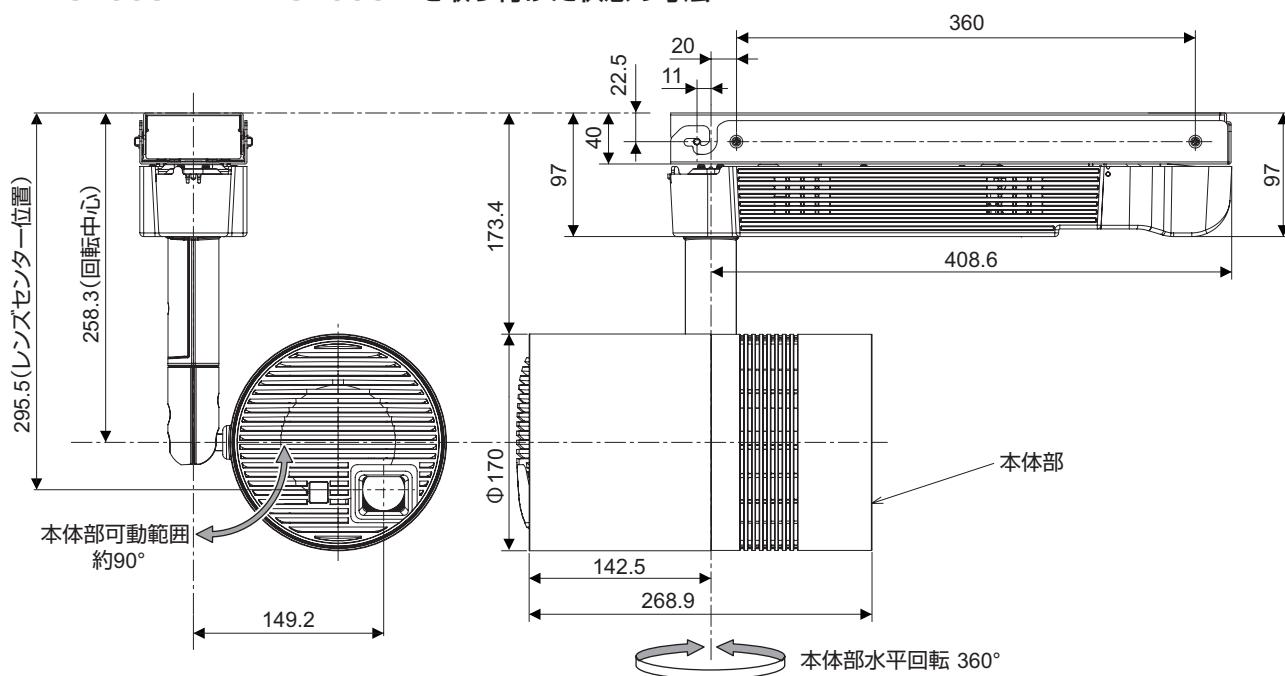
組立寸法図

本製品に別売品のプロジェクターを取り付けた状態の寸法です。

<NTN91001W / NTN91001B を取り付けた状態の寸法 >



<NTN91003W / NTN91003B を取り付けた状態の寸法 >



パナソニック株式会社 ライティング機器ビジネスユニット

〒 571-8686 大阪府門真市大字門真 1048 番地